



Walk with Children めぐる



せいび

210 号
2025 年 3 月

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

学校長 シスター小島理恵

「サレジアン国際学園目黒星美小学校」と校名を変更して2年目が過ぎようとしています。初めのうちは、電話を取る時や自己紹介をする時などに「目黒星美学園」とついつい間違えてしまうこともありましたが、今ではすっかり慣れてきました。そして、今、サレジアン2回目の卒業生を送り出そうとしています。「目黒星美」と言う名前を残したことに、教員間では時折、「よかったね」と言う話をします。私たちの学校は、星のように心の美しいマリア様の生き方に倣って生活できるよう子ども達を導きながら、「品性を備えた誠実な明るい児童の育成」を目指しています。この大事な教育目標をこれからも実践して参りたいと思います。

この一年の間にも、様々なドラマが学校生活の中では繰り広げられました。笑いあり涙あり、山あり谷ありの日々でしたが、子ども達の笑顔が毎日のように見られたのは私たち教職員の喜びでもありました。これはひとえに保護者の皆様のご理解とご協力のおかげと心より感謝しております。日々成長していく子ども達と共に、私たち自身も成長できるよう精進して参りたいと思います。

令和7年度も、神様の豊かな祝福がありますよう、心よりお祈りいたします。一年間、本当にありがとうございました。

コンネッショナー
Conessione ~つながり~

「Conessione」とは、イタリア語で「つながり」を意味する言葉です。

ここではキリスト教とのつながりを大切にするための豆知識を紹介していきます。



お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう

マタイ 25 章 23 節「タラントンのたとえ」

教頭 細谷 勇太



先日の朝礼で、佐野洋子さんの「おじさんのかさ」（講談社）という絵本の読み聞かせをしました。傘が濡れないように抱えて雨の中を走ったり、人の傘の中に入ったり、どしゃぶりの日は出かけないで家の中にいたりして、傘を大事にしているおじさんが、お話の最後にはずぶ濡れになった傘を、「傘らしいじゃないか。」と言ってうっとり眺めます。

傘にも傘として輝く時があり、それを見てうっとりしてくれる人がいます。子どもたち一人一人も、その小さな力を発揮しようとしている時、特に誰かのためにそれを使おうとしている時こそ、キラキラ美しく輝きます。そして天の神様はそれを見て、うっとりして見ていてくださると思います。

6年生が卒業します。彼らは目黒星美の6年間で、自分の小さな力をどのように使うことが、神様に喜んでいただけるかをたくさん勉強してきました。特にこの1年間は、平和、自然、社会など、未来に向かって自分にできることを考えた沖縄「美ら島学校」をはじめ、ボランティア活動なども経験しながら、小学校最後の年を過ごしてきました。6年生が、目黒星美で培った「品性」と「誠実さ」をもって、将来うっとりさせてくれることを期待しています。

ほら、できたよ作品展

松屋銀座で東京私立小学校児童作品展「ほら、できたよ」の展示会が今年は20校の私立学校と共に開催されました。本校は毎年5年生が学校の代表として参加しており、今年は「フデバコ」をテーマに、生活を共にしているフデバコから一体どんな未来が飛び出すのか、どんな夢に向かって自分は歩いていくのか想像し、「ハコ」の中に25歳前後の自分の「ユメ」や「ミライ」を詰め込み制作しました。

制作中は細かい制作に悩んだり、立体的に「みせる」にはどうすればよいのか考え材料をうまく使いながら、手を動かして取り組みました。児童が様々な夢をもって取り組んだ作品は1万人以上の来場された沢山のお客さんに鑑賞され、平日も休日もにぎわっていました。みんなの夢が叶うよう、彼らの歩みを今後も見守っていきたいと思います。

5年男子

「ほら、できたよ」の制作で、僕は会社員になり、仕事場で働いている未来の自分を作ろうと思いました。仕事部屋を作るために、お父さんが仕事をしているのを見たり、机にはどんな物が置いてあるのか観察して小物などを作りました。展示会では、色々な学校の作品が展示されていました。同じように箱を使った作品もあれば十二支を作っている作品もありました。僕たちの作品もしっかり飾られていたり、様々な種類の作品があったりして楽しかったです。

5年女子

私は、今回初めてたくさんの人に作品を見てもらいました。作品を作る時、見る人に自分が何を伝えたいか伝わるように工夫しました。また、自分たちの学校だけではなく、たくさんの学校でのんじを見て、それぞれテーマやふんいきがちがっていて、見ている時とても楽しかったです。自分では考えられない発想や想像力があって、もっと自分も作品を作る時、いつも同じようなテーマではなく、色々な作品を作りたいと思います。



赤い羽根募金活動

マリア様に倣い、P.A.M.では愛の活動を行っています。今年は、学校の隣にあるサレジオ教会で初めて「赤い羽根共同募金」の活動に取り組みました。当日は、たくさんの友達とミサに与る方々が献金してくださり、74,247円の温かい思いが集まりました。ご協力、本当にありがとうございました。



第53回カトリック小学校連合音楽会

第53回カトリック小学校連合音楽会が神奈川県民ホールで開催されました。

9月に行った音楽会での経験を活かし、さらに磨きをかけて本番に臨みました。当日は、他の学校の演奏を聴いて、それぞれの良さを感じながら、自分達も今までの練習の成果を発揮して、堂々と演奏することができ、とても貴重な経験になりました。



4年

カトリック音楽会は、神奈川県民ホールで行われました。カスタネットを演奏する「パルマ」とみんなで歌う「ウィズ ユー スマイル」を発表しました。

私は、「パルマ」の時、とてもきん張りました。なぜなら、カスタネットは、優しくたたいても音が出る楽器なので、1回でも間ちがえたらとても目立つからです。私は、足で「ダン」とうつ大事なところで間ちがえてしまいました。一生けん命に練習したのに、私は、なんて本番に弱いのだらうと思いました。

しかし、「ウィズ ユー スマイル」では、一度も間ちがえませんでした。この曲が大好きなので、みんなと歌えて良かったし、すてきな歌声だったので、見ているお母さん方も喜んでいました。一生でたった1回の音楽会、とても楽しかったです。

4年

今日は電車に乗ってカトリック音楽会に行きました。色々な学校の演奏にワクワクする気持ちとともに、今までたくさん練習してきて、音楽会の時よりも上手になった自分達の成功を願う気持ちを持って、会場に到着しました。

「まもなく、開演です。」

開演の合図と共に、どきどきしてきました。最初の学校の演奏が終わると、とても大きな拍手が聞こえ、私たちもこのくらい大きな拍手をもらったならうれしいだろうなと思いました。

舞台上立つと、明るくて緊張を消してくれるような温かい場所でした。パルマは実は1回間違えてしまいましたが、最後まで笑顔で演奏できました。「ウィズ ユー スマイル」は、2つのパートが混ざってとてもきれいでした。

今年で神奈川県民ホールは最後ということもあって悲しかったけれど、とてもいい思い出になりました。

4年

2月18日に神奈川県民ホールでカトリック音楽会がありました。学芸大学の駅までみんなで歩いて向かっている時、友達が、

「カトリック音楽会がんばろうね。」

と言ってくれました。私も、

「うん、がんばろう。」

と答えました。すると友達がにっこりと笑ってくれて、うれしかったです。

「パルマ！」はカスタネットを演奏しました。リズムも難しく、クラスで足踏みがなかなか合わないの、毎日帰りの会でたくさん練習しました。家でもバホのリズム練習をたくさんしました。合唱の「ウィズ ユー スマイル」も、歌詞をまちがえずに大きな声で、笑顔で演奏することができました。

私は、カトリック音楽会に目黒星美の代表として出られたことがとてもうれしかったです。音楽会を通して、「もっと音楽を楽しみたい。」という気持ちになりました。



委員会の取り組み

情報委員会

星美の友達を楽しんだり、学校生活を意識したりできるようにポスターの作成や校内放送に取り組んでいます。放送ではただ読むだけでなく聞き手に『伝わる』ことを意識しており、担当児童によってその工夫は様々です。

5年

僕がなぜ情報委員会に入ろうと思ったのかというと、機械操作をすることに興味があったからです。実際の活動では機械操作で音楽や読み手の声の大きさを調節することや、ポスター作りとけいじ、原こうを作って読むことなど、とてもたくさんのことをして、どれもとても楽しいです。活動を通して僕は、マイクを使って自分の考えた内容を全校に流しているということ意識し、きちんと放送できるようにしようと思えし、他の班の放送もよく聞くようになりました。これからの活動では、原こうの期限を守って、みんなが楽しめるような面白い内容を作り、ミスしないで放送して、聞き手である全校の友達に伝えられるように努力していこうと思います。



6年スキースクール

小学校生活最後の合宿のスキースクールでは、天候にも毎日恵まれ充実した活動を行うことができました。「小さな約束を守ることで信頼関係が生まれる。」という言葉を大切にしながら合宿を過ごす子どもたちの姿を見ることができました。中学校でも人とのつながりを大切にしながらそれぞれの場所で活躍してほしいと願っています。

大切な4つの事

6年

いつもと一緒にようで、少し違う朝を迎えた。私は合宿が始まるという感覚がないまま身支度をしていて、時間が経つうちに最後の合宿だということ意識した。バスに乗りバスレクをするうちに、気づけば白い雪景色が広がっていた。

私たちは天候にも恵まれ毎日スキースクールを行うことができた。三日目は二日目とは違ってフォーメーションを決めてみんなでぴったりそろえて滑る練習と、前の人とは違う動きをしながら滑る練習をした。思っていた以上に協力・思いやり・助け合いが大切だなと感じた。

私はこの最後の合宿でたくさんを知り、学び、感じる事ができたと思う。三日目の朝礼の時に細谷先生がお話してくださった「小さな約束」の話。これがこのスキースクールに欠かせないものだった。これからもこのお話を忘れず、行動に表して過ごしていきたい。

